

【政策チェックアップの概要】（国土交通省の基本的な評価方式の一つ（政策評価法に基づく事後評価））

- ・ 国土交通省の主要な行政目的に係る政策に関して横断的・体系的に整理した13の政策目標を設定
- ・ 政策を実現するための具体的な44の施策目標を設定し、施策目標の達成度を適切に表す指標として116の業績指標（細分類ベースでは188の指標）を設定
- ・ 国土交通省の施策目標及び業績指標について、前年度（令和6年度）の実績値等により評価を行い、評価結果を踏まえて、課題の特定と今後の取組の方向性を整理

1. 業績指標

施策目標の達成度合いを表す指標
具体的な数値で設定

	R6年度	R4年度	R2年度
A評価	98件 (52.1%)	105件 (55.9%)	112件 (57.1%)
B評価	87件 (46.3%)	73件 (38.8%)	84件 (42.9%)
N評価	3件 (1.6%)	10件 (5.3%)	0件 (0%)

A評価（実績値が目標達成に向けた成果を示す）

B評価（実績値が目標達成に向けた成果を示さず）

N評価（実績値が得られず判断できない）

※基準年度以降の実績値が出ていない場合に限り、N評価とした。

2. 施策目標

政策を実現するための具体的な施策に関する目標

評価区分	R6年度	R4年度	R2年度
①目標超過達成	2件 (4.5%)	1件 (2.3%)	0件 (0%)
②目標達成	10件 (22.7%)	9件 (20.5%)	14件 (31.8%)
③相当程度進展あり	16件 (36.4%)	15件 (34.1%)	21件 (47.7%)
④進展が大きくない	15件 (34.1%)	18件 (40.9%)	9件 (20.5%)
⑤目標に向かっていない	1件 (2.3%)	1件 (2.3%)	0件 (0%)

- 個々の業績指標の評価では、前回評価時(R4年度)に比べてA評価が減少した(105件→98件)。
また、令和6年度が目標年度である業績指標5件のうち、3件は最終目標値を達成した。
- 業績指標を束ねた施策目標の評価では、評価区分の分布は前回評価時と概ね同様であるものの、「①目標超過達成」・「②目標達成」の件数がそれぞれ増加する(①1件→2件、②9件→10件)など、各施策に進展が見られる評価結果となった。

- 特に「活力」「横断的な政策課題」分野において、複数の施策目標で前回から評価結果の改善が見られた。中でも、観光、不動産市場の整備、国際協力・連携等の推進に関する施策目標でA評価の件数が増加した。
- 令和6年度政策チェックアップにおいては、主に以下の事象が関連指標の動向に影響を与えていると考えられる。

<プラス影響>

- ・新型コロナウイルス感染症収束後の訪日外国人旅行者数、公共交通機関の利用者数等の増加や、経済活動の活発化
- ・地価、不動産価格の上昇

<マイナス影響>

- ・物価高騰による資機材等の価格高騰、人件費の上昇
- ・運送業界における人手不足